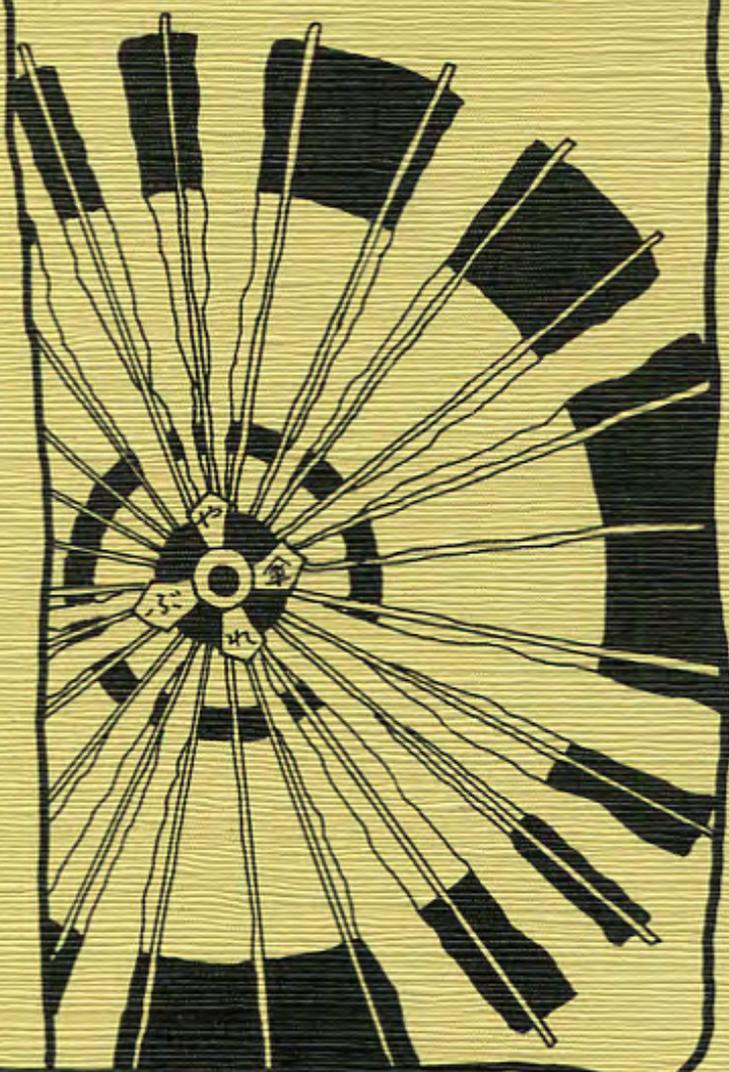


# やぶれ傘



七十二号

二〇二三年四月

あたたかや蛇籠の石に腰下ろし	根橋宏次
春早し島に測量用の棒	小川 滋
八つ橋の真中に水を見る日永	大島英昭
鰐口にはほこり積りし花の寺	廣瀬雅男
ふた閉づる力の残る榮螺焼く	きくちきみえ
白梅や黒門町の名は消えて	瀬島洒望
黄砂降る空より鷗滑り来る	藤井美晴
陽炎や中宮寺より野に出でて	丑久保 勲
走り根に座すしばらくは花の昼	安藤久美子
雛段の角に紙雛飾りけり	國保八江
手水鉢の水ひかり春揺らめけり	有賀昌子
雲水の深き一礼春浅し	白石正躬
カントリ―流るるパン屋春隣	渡邊孝彦
山黒くミモザ明るきコトルかな	松村光典
若き母手はフランコの子に預け	久世孝雄

抄 集 句 傘 れ ぶ や  
選 夫 紀 崎 大

ぶらんこを飛び降りて行く犬のもと	小山陽子
七草の香り広がる朝餉かな	森美佐子
冬滝のこゑ渡りくる陸奥の夜	秋山信行
春の日は野辺に捨てある火鉢にも	天野美登里
初鶯未だ冷たきドアのノブ	岩藤礼子
日脚伸ぶ影絵の如く葉が揺れて	枝みや子
対岸へ渡る道なく枯葎	奥田温子
演奏にいつか手拍子花ミモザ	上林富子
死ぬ話産まるる話梅一輪	菊地葉子
若布買ふ磯の香りも汐風も	小池一司
雪模様如何がとカーテン開けてをく	小巻若菜
カレー屋の粗塗り壁へ冬帽子	齋藤 博
うららかや船頭ひとり船に居て	佐竹千代
神官の浅沓ひかる淑気かな	貫井照子
春疾風孫の一本背負ひかな	萩原溪人

種 芋

大崎 紀夫

駅を出て地吹雪のこゑまのあたり  
くらがりの木へムササビの飛びにけり  
紅梅の枝 白梅の枝に触れ  
川岸へ犬出て猟期終りけり  
牛鳴けりそこらここに花はこべ

蝶去つて猫さつて庭曇りけり  
射的屋のネオン近づくおぼろかな  
白木蓮咲くきのふ晴れけふも晴れ  
種芋の灰まぶす手の灰まみれ  
落ち口に水の泡なす雪柳  
丈のびてやつとぺんべん草らしく  
晴れて安房土手も川原も諸葛菜

蛇籠

根橋宏次

裸木の影富士塚のいただきに  
さんしゆゆの影さす大谷石の蔵  
灯の映る鱈の鮨を二貫ほど  
薄氷に突つ立つてゐる鎖樋  
水温む面子のやうな石拾ひ  
紙雛テレビの横に立ちにけり  
あたたかや蛇籠の石に腰下ろし  
藁や剣を佩いて孔子像  
荃立やトタンの小屋が畑中に  
ふらここを漕ぐともなしに地を蹴る子

白魚舟

小川 滋

春 早 し 畠 に 測 量 用 の 棒  
蓬 摘 む 筧 を 半 分 満 た す た め  
暁 や け ふ 解 禁 の 白 魚 舟  
啼 き 過 ぎ て 揚 が り 過 ぎ た る 雲 雀 か な  
ア パ ー ト の 本 箱 に 載 り こ け し 雛  
木 の 芽 晴 墓 標 に 女 物 湯 呑 み  
地 酒 の 名 二 三 貼 ら れ て 梅 見 茶 屋  
山 頂 の 柵 に 微 か な 虎 落 笛  
日 脚 伸 ぶ 川 上 に 向 け 飛 行 船  
囀 の 入 れ 替 は り た る 梢 か な

初雲雀

大島英昭

雲間よりジェット機春は立ちにけり  
春浅し五十五貫の力石  
病院にバス入りきたる春埃  
末黒野に径まつすぐに残りたる  
菜花置く無人売り場をとほりけり  
野を翔てるときより見えて初雲雀  
切岸に木五倍子のたるる寺まうで  
からびたる地より紋白蝶翔てり  
八つ橋の真中に水を見る日永  
うぐひすのこゑ聞きしより九十九折

鰐 口

廣瀬雅男

やはらかな雨後の日差しや露のたう  
乗込や岸辺の杭の古びたる  
春荒れや軒に網干す漁師小屋  
前山の段々畑麦青む  
花は五分ほど門前の手打ちそば  
鰐口にほこり積りし花の寺  
花見人おびんづるさま撫でゆけり  
山峡のげんげ色付く田圃かな  
草を出て草に隠るる土手の蝶  
釣り人に種付花の踏まれたる

紙風船

きくちきみえ

新宿の空より来たる春の雪  
雪洞にスイッチのある雛の段  
啓蟄や飛び行くは蠅らしきもの  
バス停にバスくる音や春の塵  
落味噌のはみ出しているにぎりめし  
春一番吹きたるあとや春の風  
ふた閉づる力の残る栄螺焼く  
紙風船葉とともに届きたる  
河口へと桜並木の真直ぐなる  
小女子の鉢よりこぼれくの字かな

白梅

瀬島酒望

降る雪や池へ磯そ馴なるる男松  
追伸に書き込む梅の咲き具合  
白梅や黒門町の名は消えて  
鶯や今も閑伽汲む釣瓶井戸  
淡雪やバス折り返すターミナル  
サイロへと野焼のけむり届きけり  
折り返しつつ田を返す農機かな  
駄菓子屋に店番をらず母子草  
ハンチング傾げて被り花馬酔木  
春の濤岩礁隠るるほどにあり

黄砂

藤井美晴

紅梅や修道院の門暗く  
春浅き電車の窓のくもりかな  
遠富士や春潮に岩そびえ立ち  
春寒き寺の石段下りけり  
旋盤の音聞きをれば初音かな  
行きずりに夕桜見て居酒屋へ  
蘇枋咲く寺の周りをひとめぐり  
黄砂降る空より鷗滑り来る  
古草の朝の小雨に濡れてをり  
春宵のふと手にしたるゾラの本

陽炎

丑久保勲

薄味のさぬきうどん屋雪催  
観梅のリユックに下げる時計かな  
天神の春の甘酒啜りけり  
フランス語飛び交ふ鳩居堂や春  
ピザ屋出る配達バイク春の雪  
崇神陵見え始めたる春野かな  
木瓜の花ペットボトルの水ひかり  
店先にすみれの鉢を置く花屋  
陽炎や中宮寺より野に出でて

## ◇ 5月・6月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
5月	1日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	31日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
6月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

5月31日(第5金曜)は5月初連休のNHK教室の振り替え。

6月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR京浜東北線北浦和駅改札口。吟行地はさいたま市・見沼。句会場は浦和駅東口前バルコ10階・浦和コミセン第1集会室。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733  
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565  
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ